

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成26年4月22日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立第二小学校 第6学年，全児童
実施児童数（ 152 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

- ア 教科は、国語及び算数。
- イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。
- ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて上位層が少ない。
平均正答率（本校 71.5／泉佐野市 70.3／大阪府 70.7／全国 72.9）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあるが、全国と比べて上位層がやや少なく下位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 49.6／泉佐野市 51.9／大阪府 52.6／全国 55.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○ 話し合いの観点に基づいて情報を関係付けることに課題がある</p> <p>7 話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する (67.1/72.4)</p> <p>【書くこと】</p> <p>○ 仮定の表現として、適切なものを捉えることに課題がある</p> <p>6二 文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する (76.3/83.1)</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることは出題された漢字によって正答率に差があるものの概ねできている</p>	<p>1一（1）道路の標識を見る（→ひょうしき） (94.7/91.7)</p> <p>1一（2）街灯がつく（→がいとう） (91.4/87.0)</p> <p>1二（1）料理をのせたさらを運ぶ（→皿） (97.4/97.8)</p> <p>1二（2）勝利をいわう（→祝う） (67.1/59.3)</p> <p>1二（3）かぜをよぼうする（→予防） (78.9/77.4)</p> <p>○ 故事成語の意味と使い方を理解することに課題がある</p> <p>2一（五十歩百歩） (45.4/55.8)</p> <p>○ 国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解することに課題がある</p> <p>8 言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する（はかる） (69.1/74.3)</p>

国語B	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○ 質問の意図を捉えることに課題がある</p> <p>1二 林さん⑤の質問の狙いとして適切なものを選択する (18.4/30.7)</p> <p>【書くこと】</p> <p>○ 立場を明確にして、質問や意見を述べることに課題がある</p> <p>1三 大野さん②の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く (19.7/28.3)</p> <p>○ 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くことに課題がある</p>	<p>2二 付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く (25.7/26.9)</p> <p>○ 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことに課題がある</p> <p>3三 [詩1]と[詩2]を比べて読んで考えたことを書く (39.5/48.1)</p> <p>【読むこと】</p> <p>○ 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えることに課題がある。</p> <p>3一（1）[詩1]の表現の特徴として適切なものを選択する (48.0/59.2)</p> <p>3一（2）[詩2]の表現の特徴として適切なものを選択する (42.1/48.5)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	68.4	59.2	◇	9.2
国語の勉強は大切だと思いますか	86.0	91.8	◇	5.8
国語の授業の内容はよく分かりますか	84.8	80.1		4.7
読書は好きですか	67.1	73.0	◇	5.9
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	86.2	87.4		1.2
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	58.5	61.4		2.9
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	57.2	58.5		1.3
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	73.0	70.7		2.3
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか	79.6	75.8		3.8
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。 （「最後まで解答を書こうと努力した」の割合）	71.1	76.1	◇	5.0

○「国語の勉強は好き」と感じている児童の割合が全国と比べて高い反面、「国語の勉強が大切」と感じている児童の割合は低い。授業で行っていることが、普段の生活に繋がっていると感じられるような授業づくりが必要である。

○「読書は好きです」と感じている児童の割合が全国と比べて低い。

○「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。」の設問に「最後まで解答を書こうと努力した」と答えた児童の割合が全国と比べ低い。書くことを難しいと感じている児童の割合も高いため、『書く』活動の工夫が必要である。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 75.2 / 泉佐野市 75.9 / 大阪府 77.3 / 全国 78.1）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べるとやや低位層に偏りがある。

平均正答率（本校 57.1 / 泉佐野市 55.6 / 大阪府 56.3 / 全国 58.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○繰り上がりのある加法、被乗数に空位のある乗法、商が小数になる除法の計算は概ねできている</p> <p>1 (1) $46 + 57$ を計算する (96.7/96.9)</p> <p>(2) 903×6 を計算する (92.8/92.8)</p> <p>(4) $2 \div 5$ を計算する (90.8/91.8)</p> <p>○異分母の分数の加法の計算をすることに課題がある</p> <p>1 (6) 異分母を通分し正しく計算する (84.2/90.6)</p> <p>○割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量) × (割合)になることを理解することに課題がある</p> <p>2 (1) 示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ (66.4/71.9)</p> <p>(2) 示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ (49.3/54.1)</p>	<p>【量と測定】</p> <p>○二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図を関連付けることに課題がある</p> <p>4 (1) 1 m^3あたりの人数と図の表し方がわかる (76.3/82.3)</p> <p>○単位量当たりの大きさの求め方を理解することに課題がある</p> <p>4 (2) $16 \div 8$を立式する (55.3/60.8)</p> <p>【図形】</p> <p>○作図に用いられている図形の約束や性質を理解することに課題がある</p> <p>6 コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ (42.8/52.0)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○減法と乗法の混合した整数の計算をすることに課題がある</p> <p>1 (5) 四則の混合した式を理解し、正しく計算する (73.0/80.9)</p> <p>○四則の混合した式の意味について理解することに課題がある。</p> <p>8 答えが$100 - 20 \times 4$の式で求められる問題を選ぶ (76.3/81.0)</p>

算数B	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数) × (1位数)の筆算をすることは概ねできている</p> <p>1 (1) 示されたかけ算の中で積に同じ数字が並べものを選ぶ (93.4/94.6)</p> <p>○示された情報を解釈、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することに課題がある</p> <p>5 (2) 基準量と比較量を図に表したり、図から読み取ったりする (40.1/46.1)</p> <p>【量と測定】</p> <p>○全国平均より高いが、必要な情報を考え整理し、</p>	<p>○択一の問題は、正答率89%と高いが、示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述することに課題がある</p> <p>3 (3) 10人分、30人分のスープ量、残量など必要な数を言葉で書く (19.1/30.6)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述することに課題がある</p> <p>1 (2) 二人の説明を基に、37×24の積が888になることを書く (49.3/55.2)</p> <p>○全国平均より高いが、筋道を立てて考え、小数倍の</p>

与えられた複数の条件に合う時間を求めることに課題がある 3 (1) 昨年の昼食時間を見直した時に、今年は準備の時間を何分間にすればよいか書く (46.7/38.6)	長さの求め方を言葉や式を用いて記述することに課題がある 5 (3) 身長約10%の長さの立式と、1あたりの1.5倍も立式もする (36.2/33.0)
--	---

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	65.8	66.1		0.3
算数の勉強は大切だと思いますか	86.1	92.3	◇	6.2
算数の授業の内容はよく分かりますか	75.0	79.6		4.6
算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか	73.7	77.3		3.6
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	80.9	78.1		2.8
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	70.4	66.3		4.1
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか	84.8	89.0		4.2
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないか考えますか	80.3	79.4		0.9
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	80.9	81.3		0.4
算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか	81.6	83.4		1.8
今回の算数の問題について、言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答しましたか (「最後まで解答を書こうと努力した」の割合)	76.3	79.7		3.4

○ 国語と同様に、「算数の勉強が大切」と感じている児童の割合は全国と比べて低い。授業で行っていることが、普段の生活に繋がっていると感じられるような授業づくりが必要である。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択（62問）で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問（12問）は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種類別の全国等との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	<本校回答率／全国回答率>（大阪府回答率）
【家庭生活の様子】	○難しいことでも、がんばろうとする児童が多い。	○難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している <80.3 /75.1> (73.0)
	○一日あたりのテレビやビデオを見たり聞いたりする時間が長い。	○普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームをする時間は除く） 3時間以上<44.1 /38.0> (42.1)
	○一日あたりのゲームの時間が長い。	○普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか 3時間以上<23.0 /17.0> (20.5)
	○携帯電話及び、スマートフォンの使用率が高い。	○普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンでゲームをする時間を除く）。 <u><67.8 /53.7></u> (61.4)
	○読書の習慣について、全国を下回っている。	○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） 30分以上<27.6 /38.2> (34.2)
	○地域や社会で起こっている出来事に関心があるものの、地域行事の参加率が低い。	○今住んでいる地域の行事に参加している <u><54.6 /68.0></u> (58.5) ○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。 <71.0 /62.9> (56.6)

<p>【家庭学習の様子】</p>	<p>○家庭学習に関して、自主的な勉強（予習や復習）をしている割合が低く、全国を下回っており、通塾率は、全国を上回っている。</p>	<p>○家で、自分で計画を立てて勉強していますか <56.0 / 61.0> (51.1)</p> <p>○家で、学校の授業の予習をしている <35.6 / 43.2> (35.4)</p> <p>○家で、学校の授業の復習をしている <45.4 / 54.0> (40.6)</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） 2時間以上 <36.2 / 25.8> (26.4)</p> <p>○学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか 通っていない <38.8 / 52.1> (48.2)</p>
<p>【学校での学習の様子】</p>	<p>○授業内で行われた、学級の友だちとの話し合い活動に対して充実を感じている。</p> <p>○『書く』活動に対して、苦手意識をもっている。</p>	<p>○5年生までに受けた授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。 <90.1 / 84.9> (82.4)</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 <71.7 / 65.9> (61.3)</p> <p>○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。 <70.4 / 63.4> (66.1)</p> <p>○学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい <65.2 / 57.6> (59.4)</p>

本校の取組み

◎これまでの取組み

(1) 研究主題と研究体制

本校では、「言葉を大切にし、自ら考え、自ら表現し、伝え合う子どもを育てる」を研究主題に4年前から授業研究をすすめてきた。

「書くこと」では、接続語や比喩などを使った文章表現の工夫、型を取り入れた作文指導を系統化してきた。また、語彙を増やし表現力を豊かにするために、読書タイムや音読指導を生かした群読集会等を設定し、全学年で年間通して取り組んでいる。さらに、「話すこと・聞くこと」の領域では、話すルールや聞くルールを各学年の実態に応じて考え、学級会・討論会の指導に役立ててきた。今年度からは、全ての教科の中で[話し合い活動]の時間を確保し、伝え合う技術を指導していく中で、互いの考えを聴き合い自分の思考を高められるような取組みをすすめている。

(2) 少人数・習熟度別指導

国語科・算数科において、基礎・基本の定着と児童一人ひとりのニーズに即した個別指導をより一層充実させるとともに、自ら学び・自ら考える力を育てる指導を充実させることを目標としている。

本年度は、第3学年の国語科と第3、4、6学年の算数科において、各学級に週一時間の1学級2分割による学級内習熟度別指導を行っている。また、第5学年において、年間を通して、当該学級と少人数教室を使用した分割学習を行っている。

個々の児童の課題を確実に把握するとともに、個に応じた支援のあり方の研究に努めている。教材の研究、単元の学習計画、学習進度、児童個々の評価について、学年・学級担任と綿密な打ち合わせを行いながら指導を進めている。

研究組織として、校長、教頭、各学年の代表および少人数・習熟度別指導担当で組織する部会を設け、指導体制・指導内容等について情報交換を行いながら、より効果的な学習指導法について取組みを進めている。

本校では、毎年、5月と2月に校内で作成した学力診断テスト（算数）を第2学年から第6学年で実施し、取組みの成果と課題の資料としている。

◎これからの取組み

国語科において、「書くこと」では、読書指導を引き続き行い、語彙力を高めるとともに、指導者が意識して、慣用句や故事成語などを引用して話したり、辞典の活用を随所に取り入れたりして、多様な表現の仕方に興味を持たせる指導を行う。また、討論の場では、発言内容の中から、中心となる考え、理由や根拠などを短い言葉で要約してメモなどに書き留めるような指導を行う。また、必要な情報を取り出し、分類したり関係付けたりした上で分かったことや考えたことを文章にして書く機会を増やす。その際、構成や記述に条件を示すことにも留意していく。

「話すこと・聞くこと」では、司会の役割を理解し、立場や意図を捉えながら話し合いの観点を整理する指導を充実させ、全員が司会の役割を経験する機会を設けていく。

算数科において、年間を通して分割学習を行っている第5学年では、単元ごとのコース選択を児童にさせている。1学期終了時に、児童に行った算数アンケートでは、「少人数の中、自分に合った指導がしてもらえてよい」とする意見が多かった。結果は、当該学年の保護者へ「算数分割新聞」として手紙を配っている。

本校の全教職員で本年度の全国学力テストを解答し、2学期に入ってから担当に分かれ、分析会議（国語、算数、児童質問紙）を行った。本校の児童は、知識や技能は比較的定着しているが、図表、グラフ、地図などを含んだ文章の読解力、「選択式問題」とその根拠の説明力、自分の意見の表現力などに課題がある。今後さらに、言語活動の充実を図りながら、個々の児童の課題を確実に把握するとともに、子に応じた指導のあり方の研究に努めていく。また、教材の研究、単元の学習計画、学習進度、児童個々の評価について、学年・学級担任と綿密な打ち合わせを行いながら指導を進めていく。